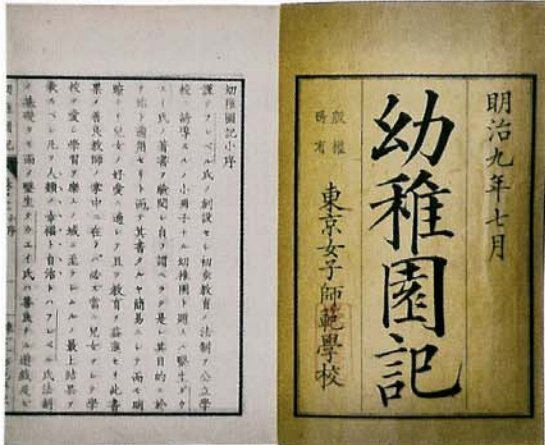


展覧会への招待

資料で見る日本の子ども—子育て・幼稚園

SHŪ



(左) A.ドウアイ著 関信三訳『幼稚園記』 1876年 (右) 「寺子供幼遊び」 1868年

本年5月に、日本保育学会第64回大会が、玉川大学を会場に開催されます。当館ではこれにあわせ、お茶の水女子大学附属図書館の共催により企画展を開催することになりました。明治期のものを中心に、両館および日本最古の幼稚園であるお茶の水女子大学附属幼稚園が所蔵する、子育て・幼児保育・幼稚園に関する資料を展示します。

まず、子どもの健やかな成長を願うための品々や子育ての手引き、錦絵に見られる子ども像と遊びの姿を取り上げます。次いで、わが国におけるフレーベルの保育思想・手法の導入と、初期の幼稚園教育を物語る資料のほか、絵画・錦絵に描かれた姿から、当時の幼稚園を見てみたいと思います。さらに、幼児保育に大きな足跡を残した東京女子高等師範学校(現・お茶の水女子大学)の倉橋惣三(1882-1955)と、玉川学園創立者小原國芳(1887-1977)という、ほぼ同世代の2人の教育者について、著書・写真・筆蹟をとりあげて紹介します。

皆様のご来館を心からお待ち申し上げます。

企画展 資料で見る日本の子ども—子育て・幼稚園

【会 期】 2011年5月13日(金)～5月26日(木)

【主 催】 玉川大学教育博物館 共催 お茶の水女子大学附属図書館

【時 間】 9:00～17:00(入館は16:30まで) 入館無料

【休館日】 5月14日(土)・15日(日)

ミュージアムコレクション展 2011

SHÛ



アドルフ・ゴットリーブ「ふたつの黒い円盤」
油彩、アクリル絵具 1970年



エンリコ・プランポリーニ「抽象」
油彩 1950年

芸術分野のコレクションのうち、美術資料は主に西洋と日本を地域的区分として、古代から現代までの絵画、彫刻、版画、工芸など約1,400点を収蔵しています。美術資料は、開館以来企画展や発表展以外の期間に常設的な展示をしてきましたが、スペースの関係で展示できた資料には限りがありました。そこで今回美術資料コレクションの中から、展示機会が少なかった資料を紹介する展覧会を企画いたしました。

展示する資料は、16世紀から19世紀にかけてのイコン（聖像画）やイタリア絵画と故藤沢武夫氏寄贈のイタリアを中心とした20世紀美術、および日本人作家の作品になります。イコンは2010年度に特別展「聖像画の世界」としてコレクションのすべてを公開いたしました。その後もイコンを見たいという問い合わせが多いため、このコレクション展でもいくつかを展示します。藤沢氏寄贈の作品では、ブーリ、プランポリーニ、マストロヤンニ、コンサグラ、シローニ、ゴットリーブ、カルダーなど欧米の作家たちの絵画、彫刻、版画などの作品を紹介します。また日本人作家では、片岡京二、海老原省三、山田貞實、田中春弥、田中稔之、後藤和信などの作品を展示いたします。

このコレクション展は今後定期的に継続させ、できるだけ多くの所蔵資料を紹介していきたいと考えています。皆様のご来館をお待ちいたしております。

企画展 ミュージアムコレクション展 2011

2011年10月24日(月)～2012年1月27日(金)

【開館時間】 9:00～17:00(入館は16:30まで)

【休館日】 土・日、11/8・9、12/22～1/9(11/5・6は開館いたします)



22.0×14.5×0.5cm 第五学年（左） 第四学年（右） 大正10（1921）年

国定教科書制度は明治36（1903）年に定められ、翌年から教科書が発行されました。しかし、国定理科教科書が初めて発行されたのは明治44（1911）年度で、4学年用は11年後の大正11（1922）年度からとなりました。明治維新後の学制下の理科学習は輪読・輪講・暗記が中心で、国定理科教科書発行後も変わりありませんでした。

国定理科教科書が発行され始めた明治末年、欧米の影響を受け「教育の中心は児童である」という児童中心の教育、いわゆる新教育を主張する人々が我が国にも現れました。その後、第一次世界大戦が終結した大正8（1919）年、政府は世界の動向を鑑みて科学教育を重視し、中等学校以上の理科実験等に対して予算措置を講じました。加えて同年、民間教育団体「理科教育研究会」が、小学校1年の教育課程から「自然科」を入れる提案を行うなど、理科教育への関心が世の中に広まりました。

大正期、児童の自発的な学習活動を重視する新教育思想は教育界の大きな潮流となりました。そうした中「理科学習帳」は、児童が自発的に実験や観察ができるように問題とヒントが書かれた児童用教科書として発行されたのです。本資料は、4学年用国定理科教科書発行1年前のことで、カラーページが含まれることなどその先進性は評価されるものです。本資料・第二課「春の日」に「春らしく思はせる事はどんな事か」の設問に、子どもの文字で「メガデテアヨクナル」と書き込みがあります。信濃の遅い春を待ちわびる子どもの目線による解答と言えるでしょう。教室の中で子どもたちはどのようなやりとりを交わしたのでしょうか。

（しらやなぎひろゆき／教育博物館学芸員）